

## 3 研究実施体制

### [概要]

本館の共同研究については、研究推進センターが年度ごとに募集方針を定め、本館研究部の教員や館外の研究者から公募によって申請された共同研究の計画に関して審議を行い、調整を行っている。そして、館外の委員を含む運営会議共同研究委員会において審議が行われ、広く学界の意見を反映させる体制をもって研究推進を図っている。

また、本館の研究においては、大学共同利用機関としての実質性を強化、充実させることを目的に、この共同研究員のほか、客員教員や外国人研究員（長期）の採用と研究プロジェクトへの配置や共同研究員の公募なども行っている。そして、機関研究員をはじめとする非常勤研究員、研究補助員を雇用して若手研究者の育成と研究推進の円滑化を図っている。

研究推進センター長 三上 喜孝

### [客員教員]

氏名	委嘱職名（本務校）	担当プロジェクト	期間
小林 淳一	客員教授（東京都江戸東京博物館・副館長）	先端的・開発的研究分野 「在外の日本関係資料の調査および館蔵近世・近代資料の調査研究」	2015.4.1 ～2022.3.31
工藤雄一郎	客員准教授（学習院女子大学・准教授）	データベース「遺跡発掘調査報告書放射性炭素年代測定データベース」	2019.4.1 ～2022.3.31
若林 邦彦	客員教授（同志社大学歴史資料館・教授）	基盤研究「近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会」	2019.4.1 ～2022.3.31
三野 行徳	客員准教授（東洋英和女学院大学・非常勤講師）	館蔵資料型基盤研究「近世後期番方旗本家に関する総合的研究—大番士・儒者杉原家文書を中心に—」	2019.4.1 ～2022.3.31
春日 聡	客員准教授（多摩美術大学・非常勤講師）	基盤研究（歴博研究映像） 「歴博研究映像の制作・保存・活用—苧麻文化の映像記録化を中心に—」	2019.4.1 ～2022.3.31
家永 遵嗣	客員教授（学習院大学文学部・教授）	基盤研究 「『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究」	2020.4.1 ～2022.3.31
土居 浩	客員教授（ものづくり大学建設学科 教授）	基盤研究 「家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討：変容するモノ・家族・社会」	2020.4.1 ～2022.3.31
島立 理子	客員教授（千葉県立中央博物館・企画調整課長）	基盤研究 「定期市からみた地域の生活文化の歴史と多様性に関する研究」	2020.4.1 ～2022.3.31
下田 誠	客員准教授（東京学芸大学次世代教育研究センター・准教授）	基盤研究「秦漢時期の文字使用をめぐる学際的研究」	2021.4.1 ～2022.3.31
村上 忠喜	客員教授（京都産業大学文化学部京都文化学科・教授）	基盤研究「映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究—制作とアーカイブスの実践的方法論の検討」	2021.4.1 ～2022.3.31
下村周太郎	客員准教授（早稲田大学文学部・准教授）	館蔵資料公募型共同研究 「高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺伽藍並条里図と栄山寺文書を中心に—」	2021.4.1 ～2022.3.31
荒川 章二	客員教授（国立歴史民俗博物館名誉教授）	総合展示第5室・第6室リニューアル	2021.6.1 ～2022.3.31

### [外来研究員]

氏名	研究課題	期間
問芝 志保	近代日本の先祖祭祀と文化的アイデンティティ—東アジアとの差異化の観点から—	2019.4.1 ～2022.3.31

## [プロジェクト研究員]

氏名	研究課題	期間
瀧上 舞	日本列島における人間・文化の起源とその発展に関する総合的研究	2018.11.1 ～2021.11.30
青柳 正俊	ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究	2019.4.1 ～2022.3.24
川邊 咲子	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築プロジェクト	2019.5.20 ～2022.3.31
箱崎 真隆	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築プロジェクト	2019.7.1 ～2022.3.31
賀 申杰	総合展示新構築プロジェクト（第5展示室「近代」・第6展示室「現代」）	2020.4.1 ～2024.3.31

## [科研費支援研究員]

氏名	研究課題	期間
石井 匠	心・身体・社会をつなぐアート／技術	2019.8.1 ～2024.3.31
井上 正望	格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築	2020.10.1 ～2023.3.31

## [リサーチアシスタント]

氏名	所属	研究プロジェクト	期間
森戸日咲子	川村 清志	地域における歴史文化研究拠点の構築	2021.4.1 ～2022.3.31
古田 一史	小倉 慈司	古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究	2021.4.1 ～2021.10.31
前野 智哉	小倉 慈司	古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究	2021.12.1 ～2022.3.31
五味 玲子	樋浦 郷子	近代日本における産業・労働と展開とジェンダー	2021.4.1 ～2022.3.31
秦 文憲	青木 隆浩	日本植物文化史の分野横断的な検証と展示手法の再構築	2021.4.1 ～2022.3.31
森田 大介	家永 遵嗣 (田中 大喜)	『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究	2021.4.1 ～2022.3.31
濱島 実樹	三野 行徳 (福岡万里子)	番方旗本家に関する総合的研究—大番士・儒者杉原家文書を中心に—	2021.4.1 ～2022.3.31
中島 皓輝	下村周太郎 (仁藤 敦史)	高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺伽藍並条理図と栄山寺文書を中心に—	2021.4.1 ～2022.3.31
小風 綾乃	後藤 真	総合資料学の創成	2021.5.1 ～2022.3.31
谷山 昌子	土居 浩 (山田 慎也)	家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討	2021.8.1 ～2022.3.31

## [研究機器]

歴博では、歴史学・考古学・民俗学の三学協業とともに分析科学をはじめ関連諸科学との学際的な積極的連携をはかり、新しい歴史学の構築創造をめざしている。このため、大学共同利用機関として、館外の研究者との共同研究を通じて新しい研究方法の導入に努めるほか、館内においても先端的な研究に必要な機器を導入することに努めてきた。

主な研究機器は下記の通りである。これらは一部を除いて共同利用に供されている。

研究推進センター長 三上 喜孝

## [主要研究機器]

分析機器・設備名		規格		導入年度	主な用途
ICP質量分析装置		パーキンエルマー	NexION2000	2020年度	・同位体比測定のために抽出した鉛、ストロンチウムなどの回収量分析 ・微量元素分析
微小試料採取設備		マイクロサポート	AxisProSS	2015年度	・顔料、剥離漆の採取
マルチコレクタICP質量分析計 (MC-ICP-MS)		Thermo Fisher Scientific	NEPTUNE PLUS	2013年度	・鉛同位体比の測定 (青銅製品などの産地推定等) ・ストロンチウム同位体比の測定 (人骨による生育地推定等)
X線分析顕微鏡		HORIBA (堀場)	XGT-5200SL	2013年度	・元素分析 (錦絵色材等) ・元素マッピング解析
特性X線検出器付低真空電子顕微鏡 (SEM-EDX)		JEOL (日本電子)	JSM-6010LA	2013年度	・極微小部の観察 (種実同定, 種実圧痕, 金属製品等) ・微小部の元素分析
色相・有機質分析システム		Megavision	EV multispectral imaging system	2013年度	・文化財のマルチバンド測定 (13 bands)
分光放射輝度計		コニカミノルタ	CS-2000A	2012年度	・文化財の可視分光測色
赤外線カメラシステム					
内 訳	InGaAsカメラ	浜松ホトニクス	C10633	2011年度	・木簡の文字判別 ・漆紙文書の文字判別
	カメラコントローラー	浜松ホトニクス	C2741-62	2011年度	
ハンドヘルド蛍光X線分析計		オリンパス・イノベックス	DP2000 DELTA Premium	2010年度	・大型資料、館外所在資料の極部元素分析
高温用赤外線サーモグラフィー		JENOPTIK	VarioTHERM basic	2006年度	・炎の逐次温度測定 (鍛冶技術の数値的分析) ・高温時の加工品の温度測定
AMS-14C法支援機器					
内 訳	自動AAA処理装置	光信理化学製作所	K-RS-C	2006年度	・炭素14年代測定試料の調製 ・炭素・窒素安定同位体分析試料の調製 ・酸素安定同位体分析試料の調製 ・炭素・窒素濃度の測定
		光信理化学製作所	K-RI-C	2002年度	
	グラファイト精製装置	光信理化学製作所	K-R0-L	2006年度	
		光信理化学製作所	K-RS-EL	2005年度	
		光信理化学製作所	KS-MK-5	2000年度	
元素分析計	Thermo	Flash EA 1112	2005年度		
高精細デジタル顕微鏡		キーエンス	VHX-500	2005年度	・微小部の観察 (金属製品等)

## 〔図 書〕

本館の研究棟には「研究用図書室」が、展示場には「入館者用図書室」があり、それぞれの用途・利用者にあわせて、関連諸分野の図書や雑誌等を収集し、利用に供して、館内外の研究者の調査活動の支援を行っている。

図書部会では、例年「本館における図書収集方針」を確認した上で、必要な図書等を選定し、各施設の整備等を進めて、図書利用におけるサービスの向上に努めている。

### (1) 2021年度の図書収集方針の概要

当該年度の図書収集方針は、次のとおりであった。

- ・日本の歴史と文化について、歴史学・考古学・民俗学及び関連諸学の基本的な図書を収集する。

#### 〔図書〕

- ・共同研究、展示、資料にかかわる基本図書を収集する。
- ・自治体史（都道府県史・市町村史）、発掘調査報告書・民俗調査報告書、展示会図録類（本館の研究等に関連する博物館・美術館のものは、蔵書の特色であり、重点的・網羅的収集に努める。

#### 〔雑誌〕

- ・大学研究紀要、学術雑誌類は、継続誌を中心として主要な雑誌を受け入れる。
- ・雑誌購入は必要最小限とし、電子媒体及び図書館相互協力の有効活用を図る。

### (2) 2021年度の活動概要

#### 1) オンラインサービス拡充による利便性向上

歴博蔵書検索OPACにおいて、国立国会図書館や他機関図書館の蔵書をシームレスに検索することを実現した。また、他機関所蔵情報を流用して、利用者が文献取寄申込及び図書購入希望申込をマイライブラリからワンストップで行うことを可能とした。加えて、図書閲覧室に選書コーナーを設置し、新刊書カタログからバーコードリーダーで読み取り、図書購入希望申込を行うことも可能とした。更に、歴博蔵書検索OPACにリファラ認証を導入し、電子ブックのモバイル端末利用及び館外利用を容易にした。

#### 2) 電子リソースの拡充と利用促進

昨年度に引き続き、電子リソースのコンテンツ拡充を行った。新たに電子ジャーナルコレクション「Project MUSE」の導入をしたほか、電子書籍プラットフォーム「Maruzen eBook Library」のコンテンツを追加購入した。また、昨年度実施した「Maruzen eBook Library」試読トライアルの利用統計から、試読トライアルが歴博の蔵書不足を補ったこと、本文検索や館外利用など電子リソースならではの利便性が歴博の研究者に活用されたことを分析し、第2回の試読トライアルを実施した。加えて、利用促進のために、歴博研究者のニーズに特化した内容のオンラインガイダンスを計6回開催した。

#### 3) 研究ニーズにあわせた購読雑誌の見直し

雑誌価格の慢性的上昇と予算削減の常態化に加え、電子リソースへのニーズの高まりに対応し、予算使途を適切にするとともに最新の研究ニーズにあわせた学術雑誌を購読するため、購読雑誌決定プロセスの抜本的見直しを図った。この結果、ウェブアンケートを用いて全館的な購読希望調査を行った上で購読雑誌を決定すること、電子版の購読を強く推奨することとし、購読雑誌費の大幅縮減を達成するとともに、新たな購読希望雑誌の購入を可能とした。

#### 4) 特殊本の保存改善と検索性・利便性の向上

研究用図書室第2書庫1層及び収蔵庫倉庫5階に保管している特殊本のうち洋書に対して、長期保存のため、資料1点ごとに形状に合わせた中性紙保存箱を手当てすると同時に、正確な目録データ及び請求記号を整備してNACSIS-CATに登録した。これにより、検索性・視認性・研究利便性を向上させるとともに、収納スペース効率化と出納業務迅速化を図った。

#### 5) 総合研究棟第2書庫第2層の整備

2014年度より順次整備を進めている第2書庫について、機構目的積立金と館内予算を得て、2層に電動集密書架ほかを設置した。これにより総棚延長3,632.15メートル、収蔵可能冊数113,017冊を増加した。

## 6) 研究用図書室の災害時の利用者安全対策

災害時の安全対策のため、研究用図書室の要所に非常灯・懐中電灯を整備した。また、非常口と消火器の配置場所をマッピングした図書室平面図を掲示した。

## 7) 発掘調査報告書・展示図録の利用環境改善

当館が網羅的に収集している発掘調査報告書、及び展示図録について、書架の狭隘が進行しているため、形状に適したブックエンドやブックボックスを整備し、図書を倒れにくく、取り出し易くするとともに、分野に合わせた書棚見出しを作成して、利用者の視認性と検索性を向上させた。

## 8) 館外利用者への研究調査活動支援

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により歴博への来館を控える研究者や遠隔地に居住する研究者のために、所属機関や居住地域の図書館において本館蔵書が利用できるよう、ILL（図書館間相互利用）受付条件を緩和する措置を講じた。なお、入館者用図書室は、感染症対策のため2021年度は閉室した。

## 9) 千葉県立中央博物館大多喜分館への展示貸出

千葉県立中央博物館大多喜分館からの依頼にもとづき、同館の2021年度企画展「兜とカブト」（開催期間：2021年10月22日から12月5日）での展示ため、『武器訓蒙図彙』全2冊（1684）を貸出した。

## (3) 今後の課題

マイライブラリを利用した選書機能の館内周知を進めることによって、今後、購入希望図書の選定がより容易にできるようになると期待される。利用頻度の低い和雑誌について見直しを行うことによって、新刊書籍の充実や、今後需要が大きくなることが予測される電子書籍の予算への充当も可能になると考えられる。

総合研究棟第2書庫第2層に設置した電動集密書架においては、温湿度モニターを実施し、図書に対する環境上の問題がないことを確認した上で、配架の開始を検討する。図書室の利用規程と利用手続きとの間に食い違いがみられるので、実情にあわせた形にそれらを修正する必要がある。

図書担当 齋藤 努

## [図書受入冊数]

	研究用図書室 受入冊数	入館者用図書室 受入冊数	製本雑誌	除籍冊数	累計蔵書冊数
冊数	3,707	86	179	0	362,842